



アプローチと玄関は洗い出し仕上げの床で統一。シューズクロークは扉をつけないオープン仕様

のための家を建ててしまおうと思ったんです」と振り返ります。建売やマンションを選択しなかったのは、長年「売り手」として携わってきた自社の建材を「住まい手」の立場で存分に使ってみたいという思いからでした。

土地は、工務店と一緒に探しました。条件は、通勤の可能性がある茨城・千葉どちらのエリアにも便利なJR常磐線沿線で、できるだけ価格を抑えられるところ。2〜3件の候補から工務店がイチオシしたのは、南側の道路を挟んだ先にお墓がある分譲住宅地の一角でした。「最初は戸惑いしましたが、お墓があるおかげで南面から十分な日が入ること、分譲地なのでインフラが整っていること、周囲に公園や栗畑、スーパー、飲食店があり、景観や利便性の点でもいいことづくめでした」とUさん。

02

「自分ひとりのために家を建てるっていいものですよ」

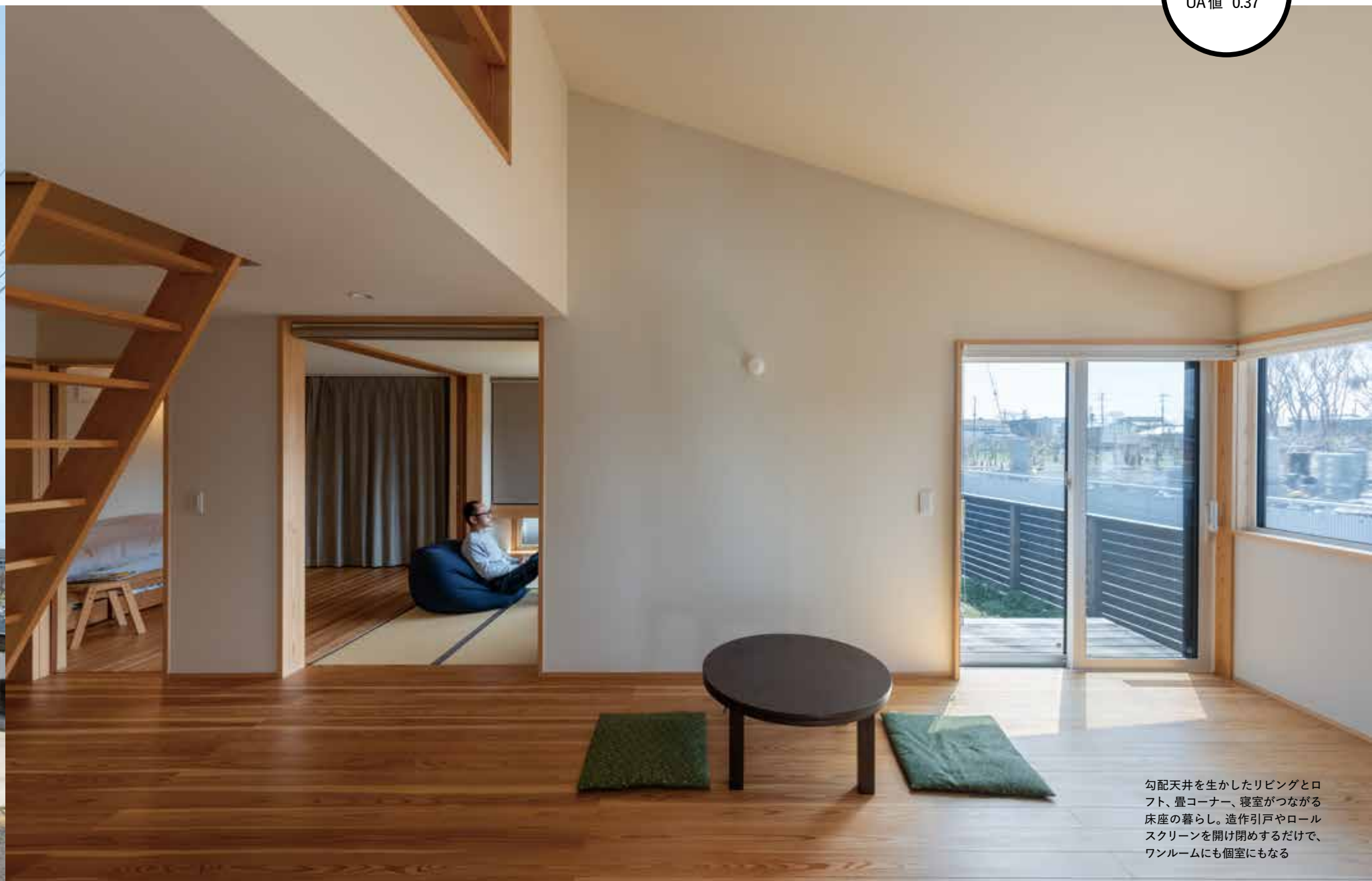
茨城の魅力にハマリ、ひとりで住むための平屋を手に入れたUさん。家じゅうに漂う杉の香りと柔らかな床の踏み心地、エアコン1台で夏も冬も過ごせる住み心地を「独り占め」しています。

文：金井友子 写真：ToLoLo studio

茨城県
UA値 0.37

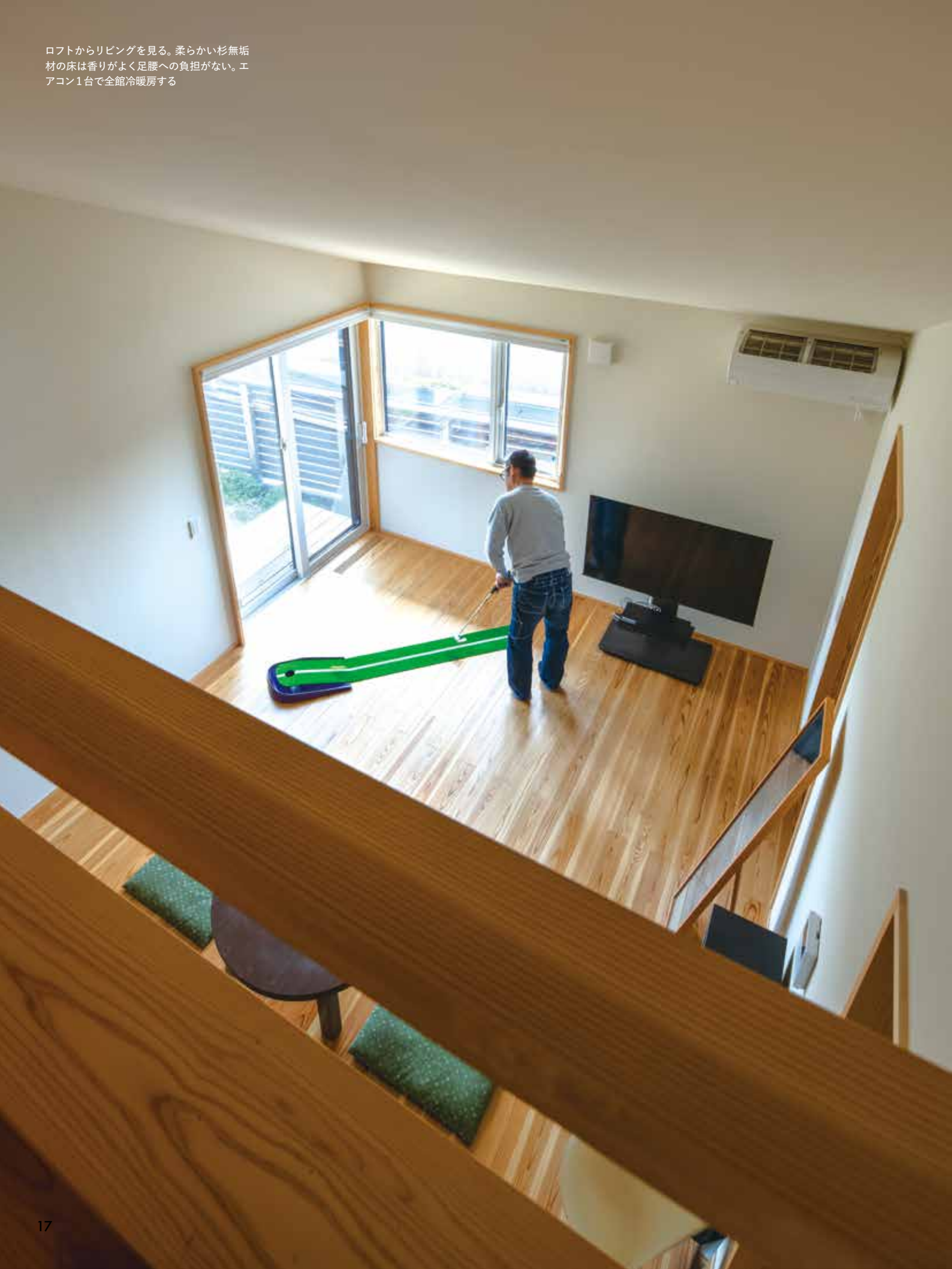


シャープな片流れ屋根と杉板外壁の組み合わせ。もともとあった柿の木を残し、新緑や紅葉を楽しむ。駐車スペースは2台分確保し、友人らがゴルフ帰りに立ち寄れるようにした



勾配天井を生かしたリビングとロフト、畳コーナー、寝室がつながる床座の暮らし。造作引戸やロールスクリーンを開け閉めするだけで、ワンルームにも個室にもなる

ロフトからリビングを見る。柔らかい杉無垢材の床は香りがよく足腰への負担がない。エアコン1台で全館冷暖房する



右／畳コーナー（和室）はリモートワークをする仕事場にも客間にもなる。自然光で明るさを確保 左／リビングのコーナーには東側にウッドデッキに出る掃き出し窓、南側に縦すべり出し＋FIX窓を設けた。トリプルガラス樹脂窓なので窓辺が寒い

家づくりで最も重視したのは「断熱性能」と「無垢の床材」です。20年ほど前に実家のお父様がヒートショックで3回倒れ、Uさん自身も寒いアパート暮らしでもやけに悩まされた経験から、躯体の断熱性能と高性能な樹脂窓・玄関ドアの重要性は身に染みて理解していました。さらに、無垢の床だと1日じゅう立っていても足腰がそれほど疲れていないことに気付き、自宅に採用したいと考えたのです。

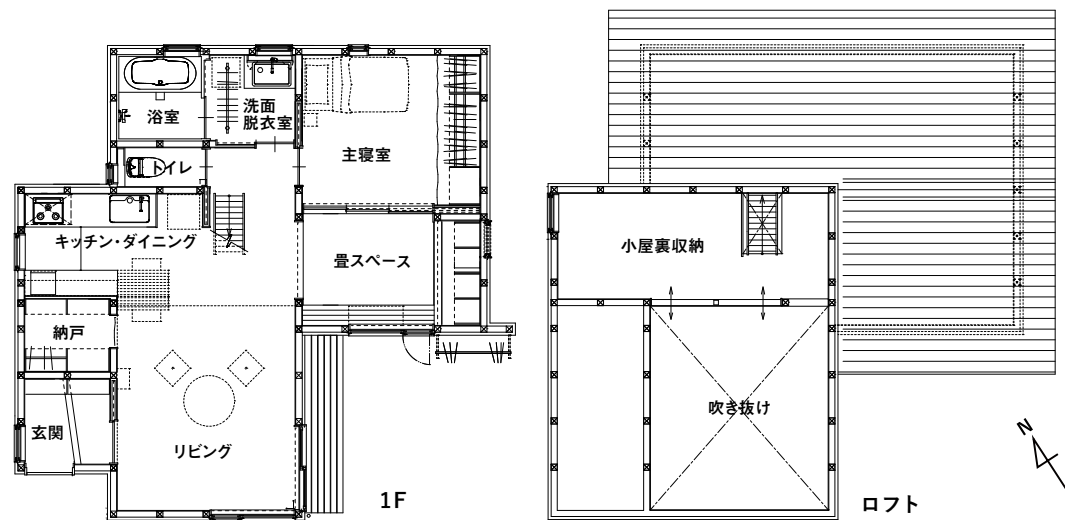
完成したのは、外部にも内部にも杉をふんだんに使った平屋の住まい。片流れの屋根と杉板張り外壁のかわいい見た目のおかげで、地域にも快く受け入れてもらえたそう。

内部の広さは「ひとりの贅沢」が楽しめる75㎡。造作引戸を引き込むと、LDKと畳スペース、主寝室がひと続きのワンルーム空間になり、吹き抜け横には6・4帖ものロフトがあるため、休日のゴルフ帰りに友人や同僚が立ち寄ってもくつろぐゆとりが十分にあります。

窓はすべてトリプルガラスの樹脂窓で、HEAT20・G2の断熱性能をクリア。壁掛けのルームエアコン1台を夏は26℃、冬は19℃に設定し、起きている間のみ運転します。「高性



寝室にも小窓を設けた。寝室と畳コーナー、水まわりにつながる動線は造作建具で仕切り、収納はカーテンを採用してコストダウンした



Builder's note



柴木材店
設計部 部長
長妻 薫さん
[茨城県下妻市]

Uさんは建材メーカーにお勤めということもあり、建物性能には強いこだわりをお持ちでした。そこで、単身での暮らしを前提に、過不足のない機能性と快適性を兼ね備えた住まいを目指しました。

年間を通じて温暖ではあるものの、夏蒸し暑く、冬は冷え込みが強い茨城県土浦市という立地を踏まえ、床下は基礎断熱、窓にはトリプルガラスを採用し、UA値0.37、HEAT20・G2の断熱性能をクリア。耐震等級は最高等級の3を確保しました。

外観は片流れ屋根に杉板張りとし、シャー

プで男性らしい印象に。敷地西側の立派な柿の木を残したいとの希望を受け、配置を工夫したことで、今では夏の日射遮蔽にも貢献しています。

「床に座る暮らし」をご希望だったため、足触りの柔らかい杉板を床に、壁には卵の殻から生まれたエコ塗料・エッグペイントを採用しました。

収納はロールスクリーンやカーテンを活用し、コストと機能性を両立しています。

高断熱・高気密で、エアコン1台でも夏も冬も快適な住まいとなりました。

Data

《U邸の建築概要》

設計：柴木材店（茨城県下妻市）
施工：同上
建設地：茨城県土浦市（6地域）
竣工：2022年5月
敷地面積：167.96㎡
延床面積：75.05㎡
構造：木造軸組工法平屋建て
認定：長期優良住宅

《断熱仕様》

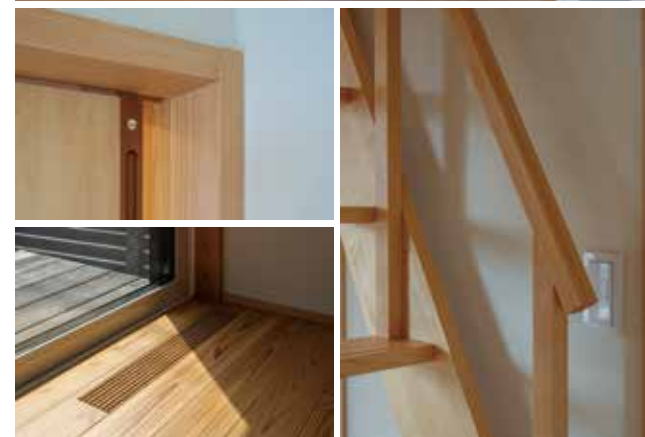
天井断熱：グラスウール16K 155mm
壁断熱：高性能グラスウール 20K 105mm
基礎断熱：A種押出法ポリスチレンフォーム保温板3種b 50mm
U A 値：0.37W/㎡K
C 値：－
η AC 値：1.1
η AH 値：0.9
窓：APW430、431
玄関ドア：ユダ木工

《設備仕様》（オール電化）

暖房：ルームエアコン1台
冷房：ルームエアコン1台
給湯：エコキュート
換気：第三種換気
発電：太陽光発電5.0kW

《住まい手》

男性52歳



上右／6.4帖のロフトも居場所の1つ 上左／キッチンの窓から柿の木が見える
右下／一番お気に入りの造作洗面には北東の安定した光が入る 中下／ロフトに上
がる造作階段 中左／造作引戸の明かり窓 下左／床ガラリで床下の乾燥を保つ



暮らしをインタビュー

暮らしてみて感じたことや変化を
住まい手にインタビューしました。

ルームツアーとあわせて
YouTubeでご覧ください。



能住宅に住んでいる人はよく「夏暑くなく冬寒くない」という表現をしますが、その感覚がわかりました。「涼しい」とか「暖かい」よりも、暑さや寒さをガマンする必要がない、「快適と楽の間」にいるような感じですね。

以前の暮らしでは、冬は毛布2枚＋布団が必須でしたが、毛布が不要に。こたつの出番がなくなり、こたつ布団は処分して今はテーブルとして使用しています。真冬でも風呂上がり裸足で過ごすのが気持ちよく、しもやけもできなくなりました。

ここで暮らし始めて2年。「家で過ごす時間が圧倒的に長くなった」と話すUさん。「アパート時代は休日に家にいるのがもったいない気がして外に飲みに行くことが多かったのですが、今は室内でゴルフのバット練習をしたり、スポーツ中継を見ながら晩酌をするのが至福の過ごし方」だといいます。

電気代（オール電化）は年7万円弱で、太陽光発電の売電は年12～13万円と収支はかなりのプラス。「光熱費の負担が少なくなるとお財布だけじゃなく心のゆとりも増えます。ぜひいろんな方に、家の断熱性能を上げて電力を極力自分で賄う暮らしを知ってほしいと思います」。